

出張報告

報告日

令和8年7月24日

会 派 名	日本共産党柏崎市議員団
報告者氏名	五位野 和夫
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	「核燃・だまっちゃおられん津軽の会」第19回総会・第46回市民講座にて原発問題の報告と交流
日 時	7月18日（土） 14:00 ～ 7月18日（土） 16:30
場 所 (会 場)	青森県弘前市駅前記念会館
調査項目等	
概 要	「核燃だまっちゃおられん津軽の会」の第19回総会・第46回市民講座において「新潟県知事選挙を終えて・・・原発をめぐる様々な問題をどうすれば政治に反映できるのか、その課題を考える」と題して、柏崎市での原発を取り巻く市民運動と市議会でのどのような議論があったのかなどについて報告し、住民投票条例を求める署名活動や県知事選挙の取組みを通じて、参加者の皆さんと日本のエネルギー政策、核燃料サイクルの問題、柏崎市と現地の市民運動の取組みについて研修した。 報告では、2002年の東京電力柏崎刈羽原発の「トラブル隠し事件」を契機に発足した「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」の果たしてきた役割、原発の再稼働の是非は県民が決めたいとの思いから、県民投票条例を求める署名の取組み。そして5月の県知事選挙に至った経緯と、それらに関わってきた市民の運動と教訓などを報告。 参加者からは ・ 柏崎では使用済み核燃料の搬出先が決まらない事に不安の声はないのか。 ・ 原発に不安の思いを持つ市民を一つに結集出来ないのか ・ 自分たちも広く住民の声を集めた団体をつくり県と交渉できる力をつけたい ・ 六ヶ所村の再処理工場の完成が遅れていることが、柏崎刈羽原発の運転に支障をきたしているのではないかと柏崎の人たちに思われないか心配。などの意見が出された。 特に原発について反対と賛成の団体が一緒に原発に関わる課題を議論する「地域の会」が、原子力政策の方向性や新規制基準、核物質防護に関する取組状況、原子力防災訓練、放射線監視などをテーマとして、様々な議論を重ねて議論し、要望書をまとめ関係省庁や新潟県、柏崎市、刈羽村、事業者へ要望書を提出していることに現地の対応との大きな違いを驚きを持って受け止めたとの感想が出された。

所 感 等

青森県下北半島は日本の原子力政策の出口の中心地であり、六ヶ所村の再処理工場は、当初1997年に予定された竣工がこれまでに27回延期されている。このままでは、日本の原発はいずれ、停止せざるを得なくなる恐れがある。こういう状況のなかで再処理工場の竣工の延期ということが積み重なっていけば、自分たちの地域が中間貯蔵どころか最終貯蔵地になるのではという不安のなかで暮らしている。

原子力発電所があり、事故時の被ばくの恐れと避難がきちんとできるのかという柏崎と、自分たちの地域を使用済み核燃料の最終貯蔵地にしたくないとの思いで運動している下北地域との違いはあるが、いずれも国の原子力政策に抗する運動団体の存在がある。今回の下北地域の方々の意見を聞くなかで、日本は財界やアメリカの求めるままに原発回帰、原発依存へと突き進むのか、再稼働を許さず「原発ゼロの日本」にすすむのか、大きな分かれ道にあることを学習した。今後の議会活動に大い役立つものとなった。

